

高等学校 令和 8 年度（2 学年用） 教科 商業 科目 商業選択 A（財務会計 I）

教 科： 商業 科 目： 商業選択 A（財務会計 I） 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 4 組

教科担当者：（3・4 組：深田）

使用教科書：（新財務会計 I（実教出版））

教科 商業 の目標：

- 【知識及び技能】 商業の各分野について体系的・系統的に理解し、ビジネスの場面で活かされる知識を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を自ら見つけ出し、職業人に求められる倫理観と創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、ビジネスの創造と発展協働的に取り組む態度を養う。

科目 商業選択 A（財務会計 I） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1編財務会計の基礎 第1章企業と会計 第2章企業会計制度と会計法規 【知識及び技能】 ・企業会計の意味と役割について理解させる。 ・企業会計制度の意味を明らかにし、会計法規の必要性について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・株式会社制度の特徴と基礎的な会計処理について理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・簿記・会計の発達の歴史を明らかにし、会計の歴史について理解させる。 ・企業会計原則および会計基準の役割を明らかにし、一般原則及び重要性の原則について理解させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・会計の意味や機能について正しく理解しているか。 ・会計法規の種類や目的について、どのようなものか正しく理解しているか。 【思考・判断・表現】 ・会計基準がなぜ必要か説明できるか。 ・会計法規の役割を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べようとしているか。 ・企業会計原則の適用例について、自ら進んで実際の事例から調べようとしているか。	○	○	○	6
	第2編貸借対照表 第3章貸借対照表のあらまし 第4章資産の意味・分類・評価 第5・6章流動資産 当座資産・棚卸資産・その他の流動資産 【知識及び技能】 ・第2編の全体像をつかませる。 ・貨幣性資産と費用性資産の概略を理解させる。 ・営業循環基準と1年基準の意味および、それらの基準の適用資産について理解させる。 ・当座資産の意味および種類を理解させる。 ・棚卸資産の意味と種類を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・貸借対照表の区分が、第2編の学習順序になっていることを指摘する。 ・貸借対照表の当座資産に関する部分の作成を行う。 ・当座資産・棚卸資産以外の流動資産にどのようなものがあるか、その意味と種類を理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・貸借対照表の様式には、勘定式と報告式があることを理解させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・貸借対照表の役割と区分・様式について、正しく理解しているか。 ・資産とはどのようなものか正しく理解しているか。 ・当座資産・棚卸資産・その他の流動資産の意味を理解し、適切な会計処理ができるか。 【思考・判断・表現】 ・貸借対照表の区分はなぜ必要か説明できるか。 ・資産の分類の仕方について、営業循環基準と1年基準を用いて説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・貸借対照表の区分について、自ら進んで学習する態度を示しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで貸借対照表の作成に取り組もうとしているか。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	第7～9章固定資産 有形固定資産 無形固定資産 投資その他の資産 【知識及び技能】 ・有形固定資産の意味と種類を理解させる。 ・無形固定資産の意味と種類を理解させる。 ・投資その他の資産の意味と種類を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・固定資産の除却と買い替えの記帳について習熟させる。 ・無形固定資産の取得原価の計算方法を習得させる。 【学びに向かう力、人間性等】 各勘定の期末評価について理解させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・有形固定資産の意味を理解し、適切な会計処理ができるか。 ・無形固定資産とはどのようなものか説明できるか。 ・投資その他の資産の期末評価の方法について説明できるか。 【思考・判断・表現】 ・棚卸資産の払出価額と期末棚卸高の計算方法を正しく理解しているか。 ・減価償却を行う理由と、計算方法の違いについて説明できるか。 ・リース取引の概略について説明できるか。 ・投資その他の資産の期末評価の方法について説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで貸借対照表の作成に取り組もうとしているか。 ・本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで貸借対照表の作成に取り組もうとしているか。	○	○	○	14

2 学 期	第10～12章負債の意味と分類 流動負債 固定負債 【知識及び技能】 ・負債の意味について、基礎的知識を習得させる。 ・流動負債・固定負債の各項目の内容を正確に習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・負債の分類について、基礎的知識を習得させる。 ・未払金と未払費用、前受金と前受収益の差異を明らかにする。 ・長期借入金とリース債務について、1年以内に返済・支払いが行われる部分についての処理方法を習得させる。 ・退職給付引当金の処理方法を習得させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・各勘定の期末評価について理解させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・負債とはどのようなものか正しく理解しているか。 【思考・判断・表現】 ・負債の分類の仕方について、営業循環基準と1年基準を用いて説明できるか。 ・未払金と未払費用、前受金と前受収益の違いを説明できるか。 ・引当金の性質と種類について説明できるか。 ・固定負債がどのようなものか説明できるか。 ・長期借入金とリース債務の表示区分について、正確な判断ができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・負債の分類について、そのあらましを自ら進んで学習する態度を示しているか。 ・本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで貸借対照表の作成に取り組もうとしているか。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	第13章純資産の意味と分類 第14章資本金 第15章資本剰余金 第16章利益剰余金 第17章自己株式 第18章新株予約権 第19章貸借対照表の作成 【知識及び技能】 ・純資産の意味と分類を明らかにする。 ・株式会社資本金の意味と計算を習得させる。 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解させる。 ・繰越利益剰余金の内容とその処理方法を習得させる。 ・自己株式の取得・処分・消却の会計処理を習得させる。 ・新株予約権の発行・行使の会計処理を習得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・株式会社の株主資本の分類および内容を理解させる。 ・資本希の増加・減少の内容およびそれぞれの処理方法を習得させる。 ・資本準備金・その他資本剰余金に関する処理を理解させる。 ・繰越利益剰余金の内容とその処理方法を習得させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・各勘定の期末評価について理解させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・純資産とはどのようなものか、正しく理解しているか。 ・各純資産の勘定科目の意味を理解し、適切な会計処理ができるか。 【思考・判断・表現】 ・純資産の分類について説明できるか。 ・各純資産の勘定科目の増加・減少とはどのようなものか、説明できるか。 ・会社の合併について、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで貸借対照表の作成に取り組もうとしているか。	○	○	○	18
2 学 期	定期考査			○	○		1
	第3編損益計算書 第20章損益計算書のあらまし 第21章損益計算の意味と基準 第22章売上高 第23章売上原価、販売費及び一般管理費 第24章営業外費用・営業外収益 【知識及び技能】 ・第3編の全体像をつかませる。 ・損益計算の意味とその二つの計算方法（財産法と損益法）について十分理解させる。 ・売上原価・販売費及び一般管理費の意味を理解させる。 ・経常的な損益のうち、主として財務活動から生じる営業外収益・営業外費用の内容を明らかにし、計上損益の概念を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・損益計算書の区分が、第3編の学習順序になっていることを明らかにする。 ・収益・費用の計上時期を定める三つの認識基準（現金主義・発生主義・実現主義）、また測定基準について理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・損益計算書の様式には、勘定式と報告式があることを理解させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・損益計算書の役割と区分・様式を正しく理解しているか。 ・損益計算の意味と基準について、正しく理解しているか。 【思考・判断・表現】 ・損益計算書の区分はなぜ必要か、説明できるか。 ・収益・費用の認識基準について、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで損益計算書の作成に取り組もうとしているか。	○	○	○	11

3 学期	第25章特別利益・特別損失 第26章損益計算書の作成 第27章その他の財務諸表 第4編その他の会計処理 第28章役務収益・役務原価 【知識及び技能】 ・特別利益・特別損失の意味と内容を明らかにし、それらの会計処理を理解させる。 ・損益計算書作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得させる。 ・株式資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・会計計算規則による報告式の損益計算書作成能力を養う。 ・注記表の意味を理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・損益計算書を自分で作成できるように努力しているか。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・特別利益と特別損失の意味を理解し、適切な会計処理ができるか。 ・当期純利益の概念を正しく理解しているか。 ・報告式の損益計算書の作成方法について、正しく理解しているか。 ・株主資本等変動計算書の意味を理解し、その作成ができるか。 【思考・判断・表現】 ・特別利益と特別損失にはどのようなものがあるか、説明できるか。 ・損益計算書を作成するために必要な原則について、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本章で学んだ内容を活かし、自ら進んで損益計算書の作成に取り組もうとしているか。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	第29章外貨建取引 第30章税効果会計 第5編財務諸表の活用 第31章財務諸表のディスクロージャー 第32章財務諸表分析 第33章連結財務諸表のあらまし 【知識及び技能】 ・外貨建取引の意味を理解させる。 ・税効果会計の意味と役割を理解させる。 ・企業と利害関係者およびディスクロージャー ・財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。 ・連結財務諸表の意味や目的を明らかにし、連結財務諸表の概略を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・円換算の意味を理解し、適切な会計処理習得させる。 ・貸倒引当金・減価償却・その他有価証券に関する税効果会計の会計処理を習得させる。 ・関係比例法・構成比率法・趨勢法・実数法による分析の種類を明らかにし、それぞれの計算方法について理解させる。 ・親会社と子会社の意味、さらに連結財務諸表の重要性を理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・損益計算書を自分で作成できるように努力しているか。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・外貨建取引の意味を理解し、適切な会計処理ができるか。 ・円換算の意味を正しく理解しているか。 ・為替予約について正しく理解しているか。 ・税効果会計の意味を理解し、適切な会計処理ができるか。 ・財務諸表分析の意味と方法について、 【思考・判断・表現】 ・為替差損益の発生理由について説明できるか。 ・税効果会計が当期純利益に与える影響とその理由を説明できるか。 ・財務諸表分析の方法と種類について、説明できるか。 ・連結財務諸表がなぜ必要か、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・本章の学習から、円安・円高の影響が実際の企業の業績にどのような影響を与えるかに興味を持ち、自ら進んで調べる態度を示しているか。 ・税効果会計に興味を持ち、さらに進んだ会計処理について自ら進んで学習する態度を示しているか。 ・財務諸表分析に興味を持ち、自ら進んで学習しようとしているか。	○	○	○	14
	発展編 連結財務諸表の作成 第34章 連結財務諸表の作成 【知識及び技能】 ・連結財務諸表の作成手続を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・当期分の連結仕訳として、のれんの償却、非支配株主に帰属するという当期純利益の計上、親会社と子会社相互間の債権・債務の相殺消去、貸倒引当金の修正、親会社と子会社相互間の仕入と売上の相殺消去、未実現利益の消去、子会社の配当金の修正について理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・連結精算表の作成を習得させる。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・連結財務諸表の作成方法を正しく理解しているか。 ・開始仕訳や連結修正仕訳を行うことができるか。 【思考・判断・表現】 ・開始仕訳や連結修正仕訳がなぜ必要か説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自ら進んで連結財務諸表の作成問題に取り組む態度を示しているか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		合計
	定期考査			○	○		105